

2022 年度シラバス

中学校 3 年



駒沢学園女子中学・高等学校

単位数	1 単位
担当	永井 俊道
教科書	駒沢学園の仏教（駒澤学園） 道徳 1（光村図書）
対象生徒	中学 2 年

1. 授業の目標

駒沢学園の歴史と建学の精神を理解し、仏教主義学校としての理念を学ぶと共に、道徳に替わる教科として宗教に関する一般的な知識と教養を養い、興味関心を高めることにより、現代社会の諸問題に関する考察力を身に着ける。

〔中期目標〕

建学の精神・日々のお唱えの意味と目的を学ぶことにより、駒沢学園がめざす生徒像を理解すると共に、釈迦の生涯を学ぶことにより、仏教の持つ道徳的な考え方を理解し、自分で考え行動できるようになる。

〔長期目標〕

仏教を基盤とした道徳的な理念を理解し、より良き生きるためにどのように行動すべきか考えられるようになる。あわせて、「いのち」について考え、どのように生きていくことが大切か、各自が自分のこととして考えられるようになる。

2. 副教材・参考書

駒沢学園の仏教（駒澤学園）
道徳 2（光村図書）

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

朝礼や終礼・会食でお唱えする「三帰礼文」・「四弘誓願文」・「五観の偈」などを、丁寧にお唱えしましょう。また、式典への積極的な参加や挨拶や清掃など日々の活動を大切にすることが、授業の理解にもつながります。試験に向けては、テキストをきちんと読めるようになっておいてください。

4. 宿題・課題・再試について

宗教科の授業で取り上げる社会の諸問題に関する探究授業では、グループワーク・発表を含みます。

視聴覚教材を見ての、感想や意見などをロイロノートに提出します。

予習・復習課題は、ロイロノートに提出します。

坐禅実習も成績に含まれます。真剣に取り組みましょう。

5. 評価の基準について

・単元テストの得点(70%)、提出物と坐禅実習(30%)により評価をする。

評価方法	割合	評価基準
単元テスト	70	単元テストの点数
坐禅実習	5	坐禅実習に出席し、集中して座ることができたか
提出物	20	授業ごとのまとめや課題、予習復習内容など
ノート	5	ノートのまとめ方など

・以下の表のように観点別評価をつける。

	定期試験	定期試験・提出物	提出物・坐禅実習
A	基本的な問題は概ね解くことができる。 70%～100%	思考的問題を解くことができる。論理的に自分の考えを表現できる。	坐禅実習に積極的に参加し、課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。 40%～70%未満	知識を応用して問題を解くことができる。論理的に自分の考えを表現しようと努力している。	坐禅実習に積極的に参加し、多少遅れることもあるが、課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。 0%～40%未満	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。自分の考えを表現しようとしている。	坐禅実習に参加し、課題に対する意欲がある。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業内容は、実際の授業時間数などにより、順番が前後したりすることもあります。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	期末	1、「花まつり」について【p 52～p 56】 <ul style="list-style-type: none"> ・「花まつり」が日本の季節の行事としてどのように受け入れられていたかについて学ぶ。 ・「花まつり」を題材として、「生命の誕生」とは何か、「いのち」とは何か考える。 2、釈迦の生涯について (1) <ul style="list-style-type: none"> ・誕生から出家までを学習し、釈迦の悩みについて、現代社会での問題と照らし合わせながら考える。 3、「五観の偈」を通して、現代の食・食育についての問題点などについて考える。 4、「坐禅実習」
二学期	期末	1、「追善記念日」について【p 57】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事としての「追善記念日」 ・「死」とはどのようなことか考える。 ・日本人は死についてどのように考えたのか、「地獄」・「極楽」などと結びつけながら学習する。 2、釈迦の生涯について (2) <ul style="list-style-type: none"> ・修行から成道までを学習し、釈迦の悩みについて、現代社会での問題と照らし合わせて考える。 3、「摂心会」と「成道会」について【p 58～p 61】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事としての「摂心会」と「成道会」 ・摂心会が日本にどのように取り入れられてきたのか考える。 ・自分の生きる目的や意義について考える。 4. 写経・写仏 5、坐禅実習
三学期	学年末	1、「誕生記念日」について【p 62～p 63】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事としての「誕生記念日」について考える。 2、「涅槃会」について【p 64～p 65】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事としての「涅槃会」について考える。 3、釈迦の生涯 (3) <ul style="list-style-type: none"> ・釈迦の教えと涅槃までについて学習する。 4、「山上忌」について【p 66～p 67】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事としての「山上忌」について考える。 5、坐禅実習

国語（現代文分野）（2022 年度）

単位数	5 単位の 3
担当	櫻田 りか
教科書	国語 3（光村図書）
対象生徒	中学 3 年

1. 授業の目標

「言葉」を楽しみ、文学作品に親しむ気持ちを育てる。

到達目標

- (ア) 本を年間 30 冊以上読み、語彙力・表現力を身に付ける。
- (イ) 漢検 3 級以上を取得する。
- (ウ) 予習をして授業に臨み、学習の習慣を定着させる。

2. 副教材・参考書

- ・国語ワーク（光村教育図書） ・新国語便覧（秀学社） ・セレクト漢字検定 5 級～2 級
- ・新中学問題集 国語 3 年（教育開発出版）

3. 学習を受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- (ア) 予習・復習を宿題という形で随時出すので、生徒たちは必ず宿題を終えた上で授業に参加する。
- (イ) 授業の内容は毎時間明確に提示し、終了時に確認する。
- (ウ) 学習活動・課題は積極的に取り組めるよう工夫する。
- (エ) 提出物は完成した形で、期限を守って提出する。

4. 宿題・課題・再試について

- (ア) 宿題…原則、毎時間出す。
内容は授業で学習した範囲の復習と次の授業の予習を中心とする。
- (イ) 課題…1 単元終了ごとに単元別試験を実施する。レポート作成などを行う場合もある。
- (ウ) C' Range テストを導入し、漢検 3 級以上の取得を目指して学習とテストを繰り返す。
- (エ) 2 週間に 1 度、新中学問題集を 1 課題ずつ自宅学習し提出する。

5. 評価の基準について

- ・単元別試験、単元まとめ試験の得点(50%)、学力試験の得点(30%)、提出物(20%)により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題(単元別試験)	応用問題(学力試験)	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

C' Range 実施については、以下の通りとする。

- ① 1 週間に 1 度、授業時間内で「セレクト漢字検定 5 級～2 級」内の読み・漢字検定問題演習を Microsoft Forms 上のテストにて実施。
- ② 漢字の書き問題は、新出漢字も含めて毎回の単元別試験に盛り込む。
- ③ 1 週間に 1 度、試験範囲の漢字練習を「セレクト漢字検定 5 級～2 級」に直接取り組み、提出させる。
- ④ 100 点満点、合格点を 70 点以上とし、不合格の場合は適宜課題や補習を課す。

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	期末	<p>詩「世界はうつくしいと」 小説「握手」 話す聞く 評価しながら聞く 漢字1 熟語の読み方</p> <p>論説「作られた物語を超えて」 情報 報道文を比較して読もう</p> <p>俳句「俳句の可能性」 俳句「俳句を味わう」 読書を楽しむ 私の1冊を探しにいこう 「羊と鋼の森」</p> <p>思考のレッスン 説得力のある構成を考えよう</p>
二学期	期末	<p>詩「挨拶」 小説「故郷」 話す聞く 聞き上手になろう</p> <p>論理の展開を整える 論説「人工知能との未来」 論説「人間と人工知能と創造性」</p> <p>詩「初恋」 多角的に分析して書こう 合意形成に向けて話し合おう</p>
三学期	学年末	<p>論説「誰かの代わりに」</p> <p>随筆「暖かいスープ」</p> <p>詩 「わたしを束ねないで」</p> <p>本は世界への扉「エルサルバドルの少女ヘスース」</p>

国語（古典・表現分野）

単位数	5単位の1
担当	櫻田 りか
教科書	国語3（光村図書）
対象生徒	中学3年

1. 授業の目標

古典への興味関心を育てる。古人の考え方や風習を理解し、古典に親しみをを持たせる。
自分の考えや感想を整理して、文章にする。

到達目標

- (ア) 古文・漢文を読み慣れ、興味関心を抱いて作品に触れる。
- (イ) 百人一首を覚える。
- (ウ) 文法的事項を意識する。

2. 副教材・参考書

- ・国語ワーク(光村教育図書)
- ・新国語便覧(秀学社)
- ・文法の学習(浜島書店)
- ・小倉百人一首(京都書房)
- ・古文の基礎

3. 学習を受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- (ア) 古文・漢文のリズムを体得できるように音読をする。
- (イ) 予習・復習を宿題という形で随時出すので、生徒たちは必ず宿題を終えた上で授業に参加する。
- (ウ) 授業の内容は毎時間明確に提示し、終了時に確認する。
- (エ) 学習活動・課題は積極的に取り組めるよう工夫する。
- (オ) 提出物は完成した形で、期限を守って提出する。

4. 宿題・課題・再試について

- (ア) 宿題…原則、毎時間出す。
内容は授業で学習した範囲の復習と次の授業の予習を中心とする。
- (イ) 課題…1単元終了ごとに単元別試験を実施する。暗唱テストなどを行う場合もある。
- (ウ) 2週間に1度、新中学問題集を1課題ずつ自宅学習し提出する。

5. 評価の基準について

現代文分野と合算し評価する。

6. その他

4週間に1時間程度の書写の時間を設ける。 担当教諭：酒井 篤史

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
一学期	期末	古文の基礎 P.2～5 「学びて時にこれを習ふ」 古文の基礎 P.6～7
二学期	期末	古文「万葉・古今・新古今」 古文の基礎 P.8～11 古典文法(変格活用) 古典「おくのほそ道」 古文の基礎 P.12～15 古典文法(上一段・下一段・四段)
三学期	学年末	古典「おくのほそ道」 古文の基礎 P.16～19 古典文法(上二段・下二段)

国語（講読・演習分野）

単位数	5単位の1
担当	櫻田 りか
教科書	指定された図書・新中学問題集
対象生徒	中学3年

1. 授業の目標

「言葉」を楽しみ、文学作品に親しむ気持ちを育てる。
国語の応用・発展的な力をつける。

到達目標

- (ア) 本を年間30冊以上読む。
- (イ) 読んだ本について感想や意見を書くことができる。
- (ウ) 初見の文章を読み解く力をつける。古典への興味関心を育てる。古人の考え方や風習を理解し、古典に親しみを持たせる。

2. 副教材・参考書

・新国語便覧（秀学社） ・プリント

3. 学習を受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- (ア) 学習活動・課題は積極的に取り組めるよう工夫する。
- (イ) 提出物は完成した形で、期限を守って提出する。

4. 宿題・課題・再試について

- (ア) 宿題…1か月単位で出す。
- (イ) 課題…1単元終了ごとに、レポート作成を実施する。

5. 評価の基準について

課題の評価を中心として評価をつける。その他の基準としては宿題の提出状況とする。
上記の課題は主にパフォーマンス評価の中に盛り込むこととする。

6. その他

- 1 学期・2 学期前半 『TUGUMI』吉本ばなな作(中公文庫)
- 2 学期後半以降 新中学問題集 演習問題

数学（2022年）

単位数	5
担当	山口 貴史
教科書	数研出版 改訂版中学校数学3
対象生徒	中学3年

1. 授業の目標

数の平方根について理解し、数の概念についての理解を一層深める。また、目的に応じて計算したり式を変形したりする能力を一層伸ばすとともに、二次方程式について理解し、式を能率的に活用できるようにする。図形の相似や三平方の定理について、観察、操作や実験を通して理解し、それらを図形の性質の考察や計量に用いる能力を伸ばすとともに、図形について見通しをもって論理的に考察し表現する能力を伸ばす。具体的な事象を調べることを通して、関数 $y = ax^2$ について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を伸ばす。

2. 副教材・参考書

新学社 数学のベーシックマスター 3年
 数研出版 中学数学 スタンダード問題集 3年

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

予習のポイント：教科書の内容を読み、その単元の関係ある中学2年までの内容をしっかり復習し理解しておく。

復習のポイント：その日の授業で解いた問題を、もう一度解き、答え合わせをする。この勉強を毎日積み重ねることにより、確実な力を身につける。また、1つの単元が終わるごとに、問題集等でもう1度自分の理解・記憶を確かめることも大事である。基本的な学力が身についたら問題集の応用問題を数多く解き、数学的な応用力・思考力を身につくように努力する。

4. 宿題・課題・再試・評価について

M' Range Test は毎週課題を提出し、テストを行う。

宿題は、プリント、問題集など適宜出題する。

定期試験 50点以下再試 50%の評価

学力試験 30%の評価

PH評価 Mレンジテスト 10%の評価 毎回の授業の振り返り 5%の評価 提出物 5%の評価

任意の上級問題の課題提出で振り返り点に加算する。

5. 評価の基準について

・単元末試験の得点(基本問題 80%、応用・初見問題 20%)、振り返り・提出物・小テストにより評価をする。以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題（単元末験）	応用・初見問題(単元試験)	振り返り・提出物・小テスト等
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

	基本問題（単元末験）	応用・初見問題(単元試験)	振り返り・提出物・小テスト等
A	80%～100%	80%～100%	80%～100%
B	30%～80%未満	30%～80%未満	30%～80%未満
C	0%～30%未満	0%～30%未満	0%～30%未満
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

年間指導計画

学期		授業内容 (教材)
第一学期	①	第1章 式の計算 ①多項式の計算 ②因数分解 ③式の計算の利用
	②	④素因数分解
	③	第2章 平方根 ①平方根 ②根号を含む式の計算
	④	第3章 2次方程式 ①2次方程式 ②2次方程式の利用
夏期	⑤	第4章 関数 $y = ax^2$ ① 関数 $y = ax^2$
第二学期	⑥	②関数の利用
	⑦	第5章 相似な図形 ①相似な図形
	⑧	②平行線と線分の比 ③面積の比 第6章 円
	⑨	①円
	⑩	第7章 三平方の定理 ①三平方の定理 ②三平方の定理の利用
第三学期		第8章 標本調査 ①母集団と標本 3年間のまとめ ・計算練習 ・単元まとめ問題 ・実力アップ問題 高校の予習

社会(公民)(2022年度)

単位数	4単位
担当	栗山
教科書	・中学社会歴史未来をひらく(教育出版) ・新しい社会公民(東京書籍)
対象生徒	中学3年

1. 授業の目標

- ・明治後期～現代までの歴史を学び、現代社会の理解へつなげる
- ・現代社会の課題や問題点について、主体的に関わる姿勢を身に付ける。
- ・自分の考えや意見を持ち、それを表現できるようにする。
- ・歴史・公民分野の基本的な知識を押さえながら、現代社会への理解へとつなげる。
- ・クラスメートと意見交換をし、よりよい未来の実現へ自分の意見を持ち、表現できるようにする。

2. 副教材・参考書

- ・アドバンス 中学歴史資料 東京都版 (帝国書院)
- ・Myクリア 社会(教育開発出版)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・中学3年生の社会では、近現代の歴史と公民分野を学習します。現在の世界の様子を理解し、考えを深めるためには、これらの分野の学習は必要不可欠です。自分と世界とのつながりを考えながら、学習していきましょう。
- ・授業中に学習したことをその日のうちに復習していくことが大切です。用語は間違いがないように、きちんと書き取る練習をしましょう。
- ・中学1年生から積み重ねてきた社会科の知識を定着させるために、問題演習に取り組みます。家庭でも問題に取り組みながら、力を蓄えていきましょう。
- ・自分自身の意見や考えを持ち、それを相手に伝える力をつけましょう。同時に、相手の意見を真摯に聞く姿勢も大切です。お互いを理解し合う関係性を築いていきましょう。
- ・「なぜ」「どうして」という素朴な疑問を解決しながら、授業に参加しましょう。

4. 宿題・課題・再試について

- ・問題集「Myクリア」を適宜宿題とする。適宜小テストを実施する。
- ・長期休暇や授業の内容によって、課題や調べ学習の宿題が出される。
- ・単元テストの結果が50点未満の場合は再試を受験しなければならない。再試に代わる課題を課す場合もある。

5. 評価の基準について

- ・単元テストの平均点(50%)、外部試験(30%)、パフォーマンス評価(20%)により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	単元テスト 基礎問題	外部試験 応用問題	課題・発表・提出物 パフォーマンス
A	基本的な問題を概ね解くことができる(得点率80%～100%)	資料の読み取りや記述問題に対する解を、的確に表現できる(得点率80%～100%)	授業やグループワーク、課題等に積極的に取り組み、自分自身の考えを伝えることができる
B	基本的な問題を解くことができる(得点率30%～80%未満)	資料の読み取りや記述問題に取り組むことができる(得点率30%～80%未満)	授業やグループワーク、課題等に協力し、活動ができる
C	基本的な問題を理解する努力を要する(得点率0%～30%未満)	資料の読み取りや記述問題に向き合う姿勢が見られる(得点率0%～30%未満)	授業やグループワーク、課題等に参加し、活動ができる
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業企画は予定であり、変更することがある。

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	期末	<p>歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立憲国家へのあゆみ ・激動する東アジアと日清・日露戦争 ・近代の産業と文化の発展 ・第一次世界大戦と民族独立の動き ・大正デモクラシー ・恐慌から戦争へ ・第二次世界大戦と日本の敗戦 <p>公民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会と私たち
二学期	期末	<p>公民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の尊重と日本国憲法 <p>人権と日本国憲法</p> <p>人権と共生社会</p> <p>これからの人権保障</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の民主政治と社会 <p>現代の民主政治</p> <p>国の政治の仕組み</p> <p>地方自治と私たち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの暮らしと経済 <p>消費生活と市場経済</p> <p>生産と労働</p> <p>市場経済の仕組みと金融</p> <p>財政と国民の福祉</p> <p>これからの経済と社会</p>
三学期	学年末	<p>公民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球社会と私たち <p>国際社会の仕組み</p> <p>さまざまな国際問題</p> <p>これからの地球社会と日本</p> <p>より良い社会を目指して</p>

理科（2022年度）

単位数	4単位
担当	谷口
教科書	未来へひろがるサイエンス（啓林館）
対象生徒	中学3年生

1. 授業の目標

科学的現象についての実験・観察を行い、自然に対する関心を高め、基礎知識を身につける。

2. 副教材・参考書

新ワーク理科3（好学出版）

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

授業後にその日学習した内容について、教科書・ノートを見直し、復習をする。

副教材のテキストを解き、基礎用語を確認し、応用問題で分からないところは質問をする。

4. 宿題・課題・再試について

宿題：定期的の問題集を宿題として出します。提出状況をパフォーマンス評価の対象とします。

長期休暇には、別問題集やレポートなどを宿題として出します。

再試：単元別（まとめ）試験の点数が基準に満たない場合、再試験を行います。

5. 評価の基準について

・定期試験(50%)、学力試験(30%)、パフォーマンス(20%)により評価をする。

・以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題(定期試験)	応用問題(学力試験)	主体的に学習に取り組む態度
A	基本的な問題を概ね解くことができる。 (得点率 80%~100%)	高度な思考力を要する問題を解くことができる。 (得点率 80%~100%)	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題を解くことができる。 (得点率 30%~80%未満)	知識を応用して問題を解くことができる。 (得点率 30%~80%未満)	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	理解する努力を要する。 (得点率 0%~30%未満)	継続的な学習を要する。 (得点率 0%~30%未満)	主体的に参加する態度を要する。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画は予定であり、授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は既習範囲の復習を行う。

授業計画		
学期	試験	授業内容
一学期	単元①	[生物]生命の連続性 1章 生物のふえ方と成長 2章 遺伝の規則性と遺伝子
	単元②	3章 生物の種類の多様性と進化 [環境]自然と人間 1章 自然界のつり合い
	単元③	[化学]化学変化とイオン 1章 水溶液とイオン 2章 電池とイオン
二学期	単元④	3章 酸・アルカリと塩
	単元⑤	[物理]運動とエネルギー 1章 力の合成と分解 2章 物体の運動
	単元⑥	3章 仕事とエネルギー 5章 エネルギー資源とその利用 4章 多様なエネルギーとその移り変わり
三学期	単元⑦	[地学]宇宙を観る 1章 地球から宇宙へ 2章 太陽と恒星の動き
	単元⑧	3章 月と金星の動きと見え方 [環境]自然と人間 2章 さまざまな物質の利用と人間 3章 科学技術の発展 4章 人間と環境 5章 持続可能な社会を目指して

英語 (2022 年度)

単位数	6 単位
担当	早川・クリツィア・リカ
教科書	Here We Go(光村出版)
対象生徒	中学 3 年

1. 授業の目標

教科書の内容を何度も繰り返し、聞く・書く・話す・読むことによって、中学英語の定着を図り、さらに自分に必要な課題を設定して、自ら学ぶ姿勢を養成する。また、オンライン英会話を既習事項の復習に役立てる。

2. 副教材・参考書

教育開発出版 Key ワーク英語 3 年
 正進社 New Listening Plus 3
 NHK ラジオ 中学生の基礎英語レベル 3

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

予 予習のポイント：各 Unit の内容を音声で聞いて、音声から内容を理解する。

復 復習のポイント：その日にならった Unit の内容を何度も聞いたり、音読する。暗唱できるぐらい音読することが英語力の土台を築くために重要である。
 また、英語は日頃から自分で楽しく自己学習できる学習方法を模索することが大切なので、English Marathon という自己学習記録表を活用して、日々楽しみながら英語学習方法を継続できるように工夫をする。

4. 宿題・課題・再試・評価について

- ・ E' Range Test は原則、教科書の新出単語を中心に出题する。70 点以下の者は再試をする。
- ・ 宿題は、音読・ワークブック・ライティング等を適宜課題として出す。
- ・ 単元テストは結果の 50% 未満は再試あり。

5. 評価の基準について

- ・ 単元テスト(50%の評価)、学力試験(30%の評価)、パフォーマンス評価(20%)により評価する。パフォーマンス評価は英会話の授業での発表が 10%の評価、提出物が 10%の評価となる。
- ・ 以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題(定期試験)	応用問題(定期試験・発表)	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する課題・問題に対応できる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して課題・問題に取り組むことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	授業を応用した課題・テストにも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。

6. その他

- ・ English Marathon(学習記録表)を課す。自分にとって必要な英語課題を探して、毎日継続すること。
- ・ 受験問題にも対応できるように長文読解も授業の中に取り入れていく。また、スピーチコンテストへ向けて積極的な参加を促す。

授業計画		
学期	単元テスト	授業内容 (教材)
一学期	4月 単元テスト1	Round 1 Unit1~Unit8 までリスニング 教科書本文のおおまかなストーリー理解が目標。繰り返し教科書本文の内容を聞き、それぞれのUnitのストーリーの概要や登場人物の特徴などを捉えることができる。
	5月 単元テスト2	Round 2 Unit1~Unit8 まで文字と音声の一致 聞こえた音声と文字情報の一致が目標。教科書本文の音声を繰り返し聞き、音と文字の一致ができる。
	6月 単元テスト3 単元テスト4	Round3&4 Unit1/Unit2 音読と教科書の内容定着 様々な活動を通して繰り返し音読をして、Unit1&2 本文の新出単語や本文の定着を図ることが目標。ここで、文法やライティング活動も取り入れる。
	7月 まとめの単元 テスト	単元テスト1~3の内容をまとめるテスト。
二学期	9月 単元テスト4	Round3&4 Unit3,4 音読と教科書の内容定着 様々な活動を通して繰り返し音読をして、Unit3の本文の新出単語や本文の定着を図ることが目標。ここで、文法やライティング活動も取り入れる。
	10月 単元テスト5 単元テスト6	Round3&4 Unit5 音読と教科書の内容の定着 様々な活動を通して繰り返し音読をして、Unit4の本文の新出単語や本文の定着を図ることが目標。ここで、文法やライティング活動も取り入れる。
	11月 単元テスト7	Round3&4 Unit6,7 音読と教科書の内容定着 様々な活動を通して繰り返し音読をして、Unit5の本文の新出単語や本文の定着を図ることが目標。ここで、文法やライティング活動も取り入れる。
	12月 まとめの単元 テスト	単元テスト4~6の内容をまとめるテスト。
三学期	1月 単元テスト7	Round3&4 Unit8 音読と教科書の内容定着 様々な活動を通して繰り返し音読をして、Unit5の本文の新出単語や本文の定着を図ることが目標。ここで、文法やライティング活動も取り入れる。
	2月 単元テスト8	Round5 Unit1~8のリテリング Round4 までに何度も触れてきた教科書本文の内容を自分の言葉で説明することが目標。自分で話した内容のライティング活動も行う。
	3月 まとめの単元 テスト	単元テスト7,8の内容をまとめるテスト

保健体育(2022年度)

単位数	3単位
担当	樋口
教科書	保健体育(大修館)
対象生徒	中学3年

1. 授業の目標

運動の楽しさや喜びを味わい、基本的な技能を身に付ける。
 運動を通して体力の向上を図る。
 競走や協同の経験を通して公正さ・協力性・自分の役割を知ること等を育てる。
 生涯を通しての健康の大切さを学ぶ。

2. 副教材・参考書

ステップアップ中学体育(大修館)

3. 学習を受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

ケガのないように準備運動をしっかりと行う。
 説明をしっかりと聞き、安全を第1に考える。

4. 宿題・課題・再試について

各運動における競技施設やルールについて調べ学習をおこなう。

5. 評価の基準について

- ・保健の定期試験(40%)、実技試験(40%)、課題提出(20%)により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	実技試験	保健試験	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	80%~100%	80%~100%	80%~100%
B	30%~80%未満	30%~80%未満	30%~80%未満
C	0%~30%未満	0%~30%未満	0%~30%未満
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画(保健)		
学期	試験	授業内容(教材)
一学期	期末	ケガの防止 けがの原因と防止 交通事故によるけがの防止, 犯罪被害の防止, 自然災害への備えと避難 応急手当の基本 けがの応急手当, 心肺蘇生法
二学期	期末	けがの応急手当 心蘇生法, 健康を左右するもの, 運動と健康, 食事と健康, 休養睡眠と健康 生活習慣病と健康, 喫煙と健康, 飲酒と健康
三学期	学年末	薬物乱用と健康 感染症と病原体, 感染症の予防

授業計画(体育)		
学期	試験	授業内容(教材)
一学期	実技	スポーツテスト(50M走・ハンドボール投げ・立ち幅跳び) 体育祭種目練習 水泳(クロール・平泳ぎ)
二学期	実技	ゴルフ(基礎練習(スウィング), ゲーム) バドミントン(基本動作, ストローク, サーブ) 持久走(グラウンド3周・5周)
三学期	実技	創作ダンス(グループ分け・選曲・創作・発表会)

音楽(2022年度)

単位数	1単位
担当	加瀬智子
教科書	中学生の音楽 2, 3 下 (教育芸術社)
対象生徒	中学3年

1. 授業の目標

音楽活動を通して、表現の能力を高めるとともに、音楽を愛する心を育む。音楽の構造に関心を持ち、主体的に表現を工夫して取り組む。多様な音楽に対する理解を深め、幅広く鑑賞する能力を高める。

2. 副教材・参考書

中学生の器楽(教育芸術社)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

合唱、合奏はクラスで一つのものを作り上げることを主とするので、授業では指示や説明をしっかりと聞き、集中するよう心がける。(授業準備なども含む)

実技(歌唱、リコーダー)の上達に向けて、積極的に授業に参加することが望ましい。

プリント類などの提出物は期限内に提出する。

授業内筆記テスト前には確認プリントを復習してから受験する。

歌唱や器楽の練習の参考になる音源や動画を使い、授業の振り返りを行う。

4. 宿題・課題・再試について

授業中に終わらなかった課題は宿題とする。

5. 評価の基準について

学期毎に授業内で筆記テスト(小テスト)と実技テスト(歌唱、リコーダー)を行い、実技テストを重視する。実技試験の評価基準は、指導の中であらかじめ生徒に伝える。

以下の表のように観点別評価をつける。

	筆記テスト、 実技(歌唱、リコーダー)	実技(歌唱、リコーダー) 鑑賞	授業に対する取り組み方 課題、提出物
A	80%~100%	80%~100%	80%~100%
B	30%~80%未満	30%~80%未満	30%~80%未満
C	0%~30%未満	0%~30%未満	0%~30%未満
	知識、技能	思考、判断、表現	主体的に取り組む態度

6. その他

授業計画は予定であり、内容が変更となる場合がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
一学期	期末	歌唱 花、花の街、Yesterday 鑑賞 ブルタバ(モルダウ) 楽典 音符、休符について、音名 授業内実技試験と筆記試験
二学期	期末	器楽(アルトリコーダー) 虹の彼方に、ラヴァーズコンチェルト アンサンブル シンコペイテッドクロック 歌唱 早春賦 合唱 花は咲く 仏教聖歌(道元禅師賛歌、成道会の歌、四弘誓願文) 鑑賞 ポピュラー音楽 授業内実技試験と筆記試験
三学期	学年末	合唱 音楽発表会に向けて 仏教聖歌(承陽大師賛歌、涅槃会の歌) 鑑賞 雅楽「越天楽」 楽典 読譜、拍子 授業内実技試験と筆記試験

美術 (2022)

単位数	1 単位
担当	石塚雅子
教科書	美術 2・3 光村図書
対象生徒	中学 3 年

1. 授業の目標

- ① 自然や造形によさや美を感じ取り想像力を働かせ主題を表現する能力と態度を育てる。
- ② 目的や条件に応じた豊かな発想で構想を練りデザインし制作する能力と態度を育てる。
- ③ 作品を鑑賞し深く味わう能力と態度を育てる。

2. 副教材・参考書

- ① 「自然から学ぶ」 1.2.3 佐藤忠良 他 著 (現代美術社)
 - ② 「美術・その精神と表現」 佐藤忠良 他 著 (現代美術社)
 - ③ 「少年の美術」 佐藤忠良 他 著 (現代美術社)
- 他、画集、美術書。歴史・宗教・哲学・文学書。DVD

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

常に制作への意欲を持ち続けられるように、無用な緊張は解きほぐし、それと同時に依存させすぎず自律を促しながら、各人の良さを最大限に引き出すようにアドバイスしていく。

4. 宿題・課題について

- ・ 提出日までに完成しなかった作品は宿題とする。提出期限は概ね 2 週間前後とする。
- ・ 長期休暇に美術鑑賞のレポートと実技課題を課す。

5. 評価の基準について

	実技	鑑賞	授業に対する取り組み方、課題、提出物
A	80%～100%	80%～100%	80%～100%
B	30%～80%未満	30%～80%未満	30%～80%未満
C	0%～30%未満	0%～30%未満	0%～30%未満
	知識、技能	思考、判断、表現	主体的に取り組む態度

6. その他

- ・ 実技の課題と繋げながら鑑賞の時間を設ける。図書館の蔵書、写真、映像で名作に触れる。
- ・ よい展覧会を積極的に紹介する。

※新型コロナウイルス感染拡大防止の自宅学習に合った課題として内容を適宜検討しながら、よりよい授業を進める工夫をする。

学期	単元	授業内容
1 学期	絵画 鑑賞 絵画 鑑賞	1 透視図法による風景写生 道を描く P8～15 2 レオナルドとその時代 P10～15 ルネサンス 3 ピカソのキュビズム モナリザをキュビズムで表現する 教科書 2・3P48～55 4 ゲルニカ明日への願い
2 学期	デザイン工芸 鑑賞	5 生活をいろどる紋様 教科書 2・3P40～43 ステンシル 日本の文様をもとに 日本の伝統工芸 DVD
3 学期	絵画 鑑賞	6 北斎からゴッホへ P27～29 ゴッホの絵をコラージュ模写 7 ゴッホの生涯 DVD

技術・家庭(2022年度)

単位数	1単位
担当	川里、小川
教科書	新 技術・家庭(教育図書)
対象生徒	中学3年

1. 授業の目標

A 家族・家庭と子どもの成長

幼児の成長や家族・家庭に関する学習を進める中で、人間が心身ともに成長し、家族の一員としての役割を果たすことの意義や周囲の人々との人間関係の大切さなどを理解し、よりよい生活を主体的に工夫できる能力と態度を育てる。

B 身近な消費生活と環境

社会において主体的に生きる消費者をはぐくむ視点から、消費の在り方や環境等に配慮した生活の仕方に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得するとともに、持続可能な社会における生活の営みへの足掛かりとなる能力と態度を育てる。

C 情報に関する技術

情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得させるとともに、情報に関する技術が社会や環境に果たす役割と影響について理解を深め、それらを適切に評価し活用する能力と態度を育成する。

2. 副教材・参考書

アイセック フリースでつくる『どうぶつお手玉』

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・おもちゃの縫製を通じて、基礎縫い技術の定着を図る。安全面に配慮する。
- ・キャッシュレス化の進行、消費者被害の低年齢化に伴い、消費者被害の回避や適切な対応を身に付ける。
- ・高等学校における情報関係の科目への導入としての基礎を学ぶ。

4. 宿題・課題・再試について

〈 課題 〉

1 学期：どうぶつお手玉の製作

2 学期：どうぶつお手玉の製作・消費生活課題

3 学期：コンピュータ実習課題

中学まとめテストの得点が 50%未満の場合、再試または課題。

5. 評価の基準について

1 学期 中学まとめテスト：70% パフォーマンス評価：どうぶつお手玉の製作 30%

2 学期 中学まとめテスト：70% パフォーマンス評価：どうぶつお手玉の製作・消費生活課題 30%

3 学期 中学まとめテスト：70% パフォーマンス評価：コンピュータ実習 30%

以下の表のように観点別評価をつける。

	中学まとめテスト	家庭分野課題	家庭分野・技術分野課題
A	問題を概ね解くことができる	習得した知識・技術を活かし、課題に反映・表現できている。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題を解くことができる。	習得した知識・技術を概ね活かすことができている。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	習得した知識・技術をもって取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲が感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

進捗状況により、パフォーマンス評価基準など変更することがある。

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	中学 まとめ テスト	<p>〈 家庭分野 〉</p> <p>家族・家庭と子どもの成長</p> <p>I. 家族と家庭生活</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族のことを考えてみよう 2. 家庭の生活を考えよう 3. 家族とのかかわり 4. 家族のかかわりとコミュニケーション 5. 家庭と地域のつながり 6. 将来の自分の家族や家庭 <p>II. 幼児の生活と家族</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の心身の発達 2. 幼児の生活の特徴 3. 幼児の生活習慣 4. 幼児と遊び 5. 幼児の発達と遊び 6. 幼児の遊びを支える <p>【実習】 フリースでつくる 『どうぶつお手玉』の製作</p>
二学期	中学 まとめ テスト	<p>身近な消費生活と環境</p> <p>I. わたしたちの消費生活</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. わたしたちの消費生活 2. いろいろな買い物方法 3. 買い物の法律的な意味 4. ねらわれている消費者 5. 消費者トラブルの解決 6. 買い物の社会的な意味 7. 消費者市民社会を目指して <p>II. 家庭生活と環境</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 消費生活と環境とのつながり 2. いま、わたしたちにできること
三学期	中学 まとめ テスト	<p>〈 技術分野 〉</p> <p>I. 情報に関する技術</p> <p>【実習】 コンピュータプログラミング</p>